

種名	<u>マユタテアカネ</u> <u>Sympetrum eroticum eroticum</u> 
分類	昆虫綱トンボ目トンボ科
俗称	和名は前額にある2つの黒斑が眉のようであることに由来し、眉を書きたてた茜色のトンボの意味である。
形態的な特徴	体長 35mm(腹長 23～29mm、後翅長 24～31mm)ほどで、雌雄ほぼ同じ大きさ。前額に眉状斑のある、細身で小型のアカトンボ。未成熟個体は、雌雄とも橙色の地色に黒色の条斑があるが、成熟すると雄は腹部が鮮やかな赤色になる。雌は成熟しても腹部背面が橙褐色になる程度であるが、雄のように赤化するものもある。翅は透明で無斑であるが、雌には翅端に褐色斑が出る個体もある。よく似た種にヒメアカネ、マイコアカネがいる。幼虫は体長 14～16mm(頭幅 4.5～5mm)ほどで、体色が淡褐色から褐色地に複雑な濃色斑のあるヤゴ。
分布	北海道、本州、四国、九州に分布する。離島では利尻島、粟島、佐渡島、淡路島、隠岐、杣岐、対馬五島列島、天草諸島、甌島列島、種子島、屋久島、口永良部島、トカラ列島の中の島などにも分布する。
繁殖行動	成虫はおもに6月から11月頃に見られる。幼虫はおもに夜間、挺水植物の茎や葉裏、水面から突きだした杭などに定位して羽化する。未成熟個体は羽化水域から少し離れた林に移動し、薄暗い林床の草むらなど低い位置で生活する。成熟すると水辺に戻り、雄は水際の植物などに止まって縄張りを張る。雌をみつめて交尾をすると、雌雄は連結したまま水際に移動して、打泥産卵あるいは打水産卵をする。卵はそのまま冬を越し、翌春に孵化する。
生息場所	おもに平地から低山地の、挺水植物が繁茂する池沼や湿地、湿原、水田、溝川などの止水域に生息する。林縁の木陰やうっぺいした場所など、やや薄暗い環境を好む傾向がある。幼虫は水底の植物性沈積物の陰や柔らかい泥の上にうずくまっている生活している。周辺に薄暗い林のある水田地域では、かつて普通に見られたが、近年安定した流れや冬に水が確保された環境が少なく、生息場所が減少している。
食性	
生息環境への配慮事項	林縁などの少し薄暗い所を好み、平地の開けた水田地域ではあまり見られない。本種生息のためには林地と水田湿地などの水辺が近接して存在することが必要である。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html	